

イフジ産業が勉強会

イフジ産業(株)（藤井宗徳社長）について」と題して講演。徳社長―本社・福岡県粕屋町、東証スタンダード・福証上場）は7月3日、茨城県水戸市の茨城県産業会館で勉強会を開催。

取引先の鶏卵生産・流通関係者を中心に約120人が参加した。

液卵は「食の半導体」

今後安定調達・供給に注力

藤井社長のあいさつと事業内容の紹介に次いで、J A全農たまご(株)東日本営業本部第1営業部と題して、同社の取組を詳しく紹介。

日本養鶏協会の信岡誠治エグゼクティブアドバイザーが「養鶏業界の将来



藤井宗徳社長

品は、この国内シェアは、この

10年で10・7%から15・3%に拡大したとの推計を示した。M & Aにより2009年に全株式を取

得た「日本化工食品(株)」のパンや菓子を作れないため、非常に緊急性が高くないほど市場がシユリ

では「鶏」と考えている。皆様方卵がなければ、液指導をお願いしたい」と述べた。

直近の鶏卵情勢や業界展望学ぶ

立たないが、幅広い食品となった箱玉を可能な限の製造に不可欠なことから「食の半導体」と位置付け、生産者からの規格外卵を中心とした余剰卵の安定的な購入と、国民の食生活を支える川下のユーザーへの加工卵の安定供給に常に注力していることを説明。

購入面では、79年ぶりに高病原性鳥インフルエ

は、液卵の販売見通しが立たない中で、出荷停止地区への供給を継続した



取引先の鶏卵生産・流通関係者を中心に参加した

必要期に余剰卵を吸収し、そして食品メーカーなどに液卵

を安定供給する需給調整機能は我々の使命かつ鶏卵業界に貢献できること